

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

|         |                  |            |           |
|---------|------------------|------------|-----------|
| 事業所番号   | 4372701021       |            |           |
| 法人名     | 社会福祉法人順和会        |            |           |
| 事業所名    | グループホーム陽なたぼっこ    |            |           |
| 所在地     | 熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陽4463 |            |           |
| 自己評価作成日 | 令和5年3月16日        | 評価結果市町村受理日 | 令和5年5月25日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

|          |   |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | <a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php</a> |
|----------|---|

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

|       |                          |  |  |
|-------|--------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構 |  |  |
| 所在地   | 熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205    |  |  |
| 訪問調査日 | 令和5年3月28日                |  |  |

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

南阿蘇の豊かな自然に囲まれ、各居室やリビングからは桜や紅葉、季節の花々を楽しむ事ができ、野鳥の他、ハクビシンや鹿等の野生動物を目にする機会もあり入居者の皆様を楽しませてくれます。職員の年齢層も幅ひろくお互いに意見を出し合いながら理念のひとつである「家庭的でぬくもりのある暮らし」を提供できるよう日々の様々な事に取り組んでいます。また、介護支援専門員、介護福祉士、看護師等有資格者を配置し専門性を生かしてより良いケアが出来るよう環境を整えています。今年度も外出行事や面会等に制限がある中、日々の生活の中で、入居者様が口にされた一言や表情を大切に行事の計画、嗜好品の提供、個別ドライブ、併設された特別養護老人ホームの入居の方等(奥様や兄弟、知人)との面会や、テレビ電話での交流を通して、少しでも入居者の皆様が、穏やかな気持ちで生活できるよう努めています。また、ご家族様へは広報誌や2ヶ月に1回の手紙、年賀状や暑中見舞いの葉書や電話を通して日々の状況等はお伝えし安心して頂くようにしています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然を満喫できる環境にあるホームでは、管理者の変更という過度期とともに感染症という現状に業務形態が変わり、業務の見直し等により入居者のケアに重点を置き、今出来る最大限のケアに取り組んでいる。職員の働きやすい職場環境は、入居者個々の暮らしの継続を実現させ、自由な生活(車椅子と杖を使い分けながら外に出て私語される等)を職員が見守る等職員の自然体での対応と根拠のある支援を両立させ、尊厳や本人本位を大切にしたい理念の具現化に取り組んでいる。また、長年の入居者の最終章の支援は、法人(医療・栄養課など)の協力のもと家族の思いを実現させている。日常生活に“笑顔”に注視し、笑顔になれるように共に畑作りに精を出し、“食を通して世界を旅行しよう”と銘打った食支援への取り組み、季節毎の行事等入居者の笑顔を引き出す工夫が随所に表われたホームである。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 |  | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印 |   | 項目 |   | 取り組みの成果<br>↓該当する項目に○印 |   |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>(参考項目:23,24,25)       | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者の<br>2. 利用者の2/3くらいの<br>3. 利用者の1/3くらいの<br>4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている<br>(参考項目:9,10,19)   | ○                     | 1. ほぼ全ての家族と<br>2. 家族の2/3くらいと<br>3. 家族の1/3くらいと<br>4. ほとんどできていない    |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>(参考項目:18,38)             | ○                     | 1. 毎日ある<br>2. 数日に1回程度ある<br>3. たまにある<br>4. ほとんどない                  | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>(参考項目:2,20)                     | ○                     | 1. ほぼ毎日のように<br>2. 数日に1回程度<br>3. たまに<br>4. ほとんどない                  |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(参考項目:38)                   | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>(参考項目:4) | ○                     | 1. 大いに増えている<br>2. 少しずつ増えている<br>3. あまり増えていない<br>4. 全くない            |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている<br>(参考項目:36,37)     | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 66 | 職員は、活き活きと働けている<br>(参考項目:11,12)                                      | ○                     | 1. ほぼ全ての職員が<br>2. 職員の2/3くらいが<br>3. 職員の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない       |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>(参考項目:49)                  | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う                                       | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている<br>(参考項目:30,31)         | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                                   | ○                     | 1. ほぼ全ての家族等が<br>2. 家族等の2/3くらいが<br>3. 家族等の1/3くらいが<br>4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている<br>(参考項目:28) | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |    |   |                       |   |

### 自己評価および外部評価結果

| 自己                | 外部  | 項目  | 自己評価  | 外部評価  |  |
|-------------------|-----|---|---|---|--|
|                   |     |   | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容  |
| <b>I.理念に基づく運営</b> |     |   |   |   |  |
| 1                 | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている                      | 当法人の理念である「ぬくもりと安心の福祉」を基に当事業所の”5つの暮らし”の理念を作成継続している。月末の会議時は毎月ではないが、理念の唱和を(サブタイトルまで)行っている。また、名札の裏に携帯し、いつでも確認できるようにしており、新しい職員でも理念が共有できるようにしている。その他では、玄関、リビング等に掲示している。 | 基本理念に5つの暮らしとして具現化した理念は、職員のみならず家族や地域への“陽なたぼっこだより”により啓発が行き届いている。管理者の変更という変革期にもあるが、理念に掲げる“らしく 生き生きとした”暮らしの継続には個別の対応を重要視し、入居者本人の意向を受け、ケアに反映させる等理念をケアに直結させている。 |  |
| 2                 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している                      | 今年度もコロナ感染拡大防止のため、外部からの訪問は控えているが、感染者が下火傾向の時は外出(紅葉見学、買い物など)を行っている。5月以降はコロナウイルスが2類相当から5類へ引き下げられるため、感染対策を行いながら地域とのつながりを増やしていけたらと考えている。                                | 地域との交流は厳しい状況にあり、人と触れる機会として病院の売店からの来訪による買物支援や、ホーム周辺の環境を生かしながら日常生活に笑顔を引き出すよう畑での収穫から漬物まで共に取り組む等今出来る最大限のケアに取り組んでいる。   | 運営推進会議も含め、コロナ感染症予防の緩和により、地域との交流に努める意向である。地域の中での生活基盤は確立しており、地域との交流等再始動頂きたい。 |
| 3                 |     | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている                    | コロナ感染拡大防止のため、体験学習などの受け入れは出来ていない。認知症の方々の暮らしの様子を事業所だより(広報誌)にて地域の人々に伝えている。   |   |  |
| 4                 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | コロナ禍であるため、2ヶ月に1回、文書での運営推進会議を実施。運営状況やホームの実情、コロナ感染の状況や対策についてなど周知徹底を図っている。5月からは、役場やご家族、民生委員の方々に参加を呼びかけ運営推進会議を開催したいと考えている。  | コロナ禍により書面審議として詳細な資料(ホームの実績や運営に関する事項及び研修資料等)を添付し状況を発信している。対面開催をするに当たり、地域密着型特別養護老人ホームと合同で開催するとして構成メンバーに家族も含めて検討する意向である。                                     |  |

| 自己 | 外部  | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
|    |     |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 5  | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる                   | 法人本部を通して当事業所の実情を報告している。また、訪問調査時を利用して直接伝えるようにしており、協力関係は築けていると考える。   | ホームの職員は行政へ直接出向く事は無いが、運営推進会議資料を通して情報を発信し、介護保険区分変更や更新を代行し、訪問調査時への立ち会い時の情報発信し、意見交換を行っている。法人としての行政や社協等との関わりは深く、良好な関係が築かれている。  |                   |
| 6  | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 定期的に身体拘束委員会を実施。事前に議題や資料を準備し勉強会を行っている。入居者の安全確保の観点からセンサーマットを使用されている方もいらっしゃるがご家族への説明、また理解を頂き承諾を得ている。昨年の課題となった声掛けの仕方（語尾の使い方）等においても勉強会を実施し、どのような声掛けをしたらよいか？自分はどうのように声を掛けているか職員一人ひとりが自分のケアに対し振り返る時間を設け日々の支援に繋げている。 | 身体拘束委員会での検討や出来るだけ最新の資料を配布し周知徹底に努めており、職員は拘束の弊害等正しく認識している。また、声かけの仕方を職員個々が振り返るとともに職員同士が注意喚起している。入居者一人一人の外出傾向を把握しており、まだ入居して間もない入居者支援として面会時に家族の気持ちも聞き取りし、帰りたいとの思いを実現させる為検討する意向である。 |                   |
| 7  |     | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている        | 勉強会を定期的実施し虐待防止に努めている。職員間でのコミュニケーションを大切に心身共に健全な状態で業務に就けるよう、都度業務の見直しを行いながら穏やかな気持ちでケアができるよう努めている。   |   |                   |
| 8  |     | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している    | 勉強会を実施し制度に対する理解を深め必要時に活用できるよう努めている。また、法人とも連携を図りご家族からの問い合わせにも迅速に対応できるようにしている。   |   |                   |

| 自己 | 外部  | 項目  | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|----|-----|---|--|--|-------------------|
|    |     |   | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 9  |     | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている                    | 契約は、入居前、又は入居時に契約書及び重要事項説明書等にて説明し理解、納得された上で締結している。料金改定等の際には、書面にて通知している。また、問い合わせに関しては、法人本部または当事業所にて対応しており、十分な理解、納得が得られるように努めている。 |  |                   |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                | 入居者やご家族の意見や要望の聞き取りに関しては、職員担当制を実施しており、対話や電話、手紙での相互連絡の際に意見や要望等の聞き取りを行っている。収集した意見等は運営に反映できるようケア会議や広報を活用して外部への発信に努めている。            | 家族の面会時をチャンスと捉え意見や要望を聞き取りし、意見等はケア会議で検討している。家族からテレビ等の報道を気に掛けホームでの対応を質問されることもある。コロナにより面会の制約もあり、担当職員からの手紙や陽なたぼっこ便りでの情報発信が家族の不安軽減として生かされ、入居者からは日々の生活の中で聞き取りし、個別ケアに反映させている。                          |                   |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている                                 | 職員の意見や提案は日常のコミュニケーションの場やケア会議にて聞く機会を設けている。意見や提案があった際は所長、主任で検討し運営に反映しているが、判断が難しい場合は所長、主任が代表者へ直接相談、報告し解決している。                     | 入居者のケアや業務形態が変り、午前中にケア会議を開催し業務の短縮や記録方法を改善し、入居者のケアに重点を置いている。管理者を中心として日々のコミュニケーションやケア会議等職員の意見等を出す機会が多く、業務改善会議では活発に意見交換が出来ている。また、働きやすい環境として、有給や希望休の他、コロナの中で職員も我慢をしたこの数年であったとして、リフレッシュ休暇を推奨するとしている。 |                   |
| 12 |     | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 資格取得の支援、資格手当、休暇を含めた業務改善など法人及び代表者も積極的に支援を行っている。また現場職員が働きやすくなる様、労働時間の変更や記録の簡素化を行っている。今後もより良い勤務形態への変更、職員が働きやすい職場環境づくりに努めていく。      |  |                   |

| 自己                          | 外部 | 項目   | 自己評価   | 外部評価 |                   |
|-----------------------------|----|--|--|------|-------------------|
|                             |    |  | 実践状況   | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 13                          |    | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている         | 日頃から研修の案内等あった際は掲示し職員が研修に興味を持ち参加出来るよう勤務時間等配慮している。今年度は外部のオンライン研修への参加も多く、研修に参加した職員は勉強会等で他職員へ情報を発信し一人ひとりのスキルアップに努めている。   |      |                   |
| 14                          |    | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | コロナ禍ではあるが、熊本県地域密着型サービス連絡会を通して研修や会議に参加する事で同業者との交流ができコロナ禍における対応の仕方等、直接対話でき質の向上に繋がった。また「アソウェル」の活動を通して地域の同業者との情報の共有、ネットワークの構築に努めている。また、初めて看取りを行う際は同法人のグループホームの対応等も尋ねケアの向上に努めている。 |      |                   |
| <b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |    |  |  |      |                   |
| 15                          |    | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている           | 入居前より、利用されている事業所から情報収集を行い、本人の不安を軽減できるようコミュニケーションを図ることで、信頼関係の構築に努めている。また、意思疎通が困難な方に対しては、仕草や表情の変化に気を配り思いを汲み取る努力をしている。情報に関しては職員間で共有し、支援に繋げるツールとして活用している。                        |      |                   |
| 16                          |    | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている                      | 入居前に、ご家族の目線から今望まれている事や不安、心配な事柄について話を伺い、事業所の理念や方針等も交えながら丁寧に説明。ご家族が理解、納得し安心できる関係作りを行っている。  |      |                   |

| 自己 | 外部  | 項目  | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----|-----|---|--|---|-------------------|
|    |     |   | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 17 |     | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人及びご家族が望み、必要としているサービスを見極め、他事業所とも連携しながら出来る限り対応できるよう配慮している。   |   |                   |
| 18 |     | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                 | 入居者、ひとり一人の身体状況や生活歴に応じて、日常生活の中で職員も一緒に家事活動(食器洗い・掃き掃除・洗濯物たたみ)等に取り組むことによって自分の役割を認識し、互いに協力しながら生活する環境が構築されている。   |   |                   |
| 19 |     | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている  | 2ヶ月毎に各担当より近況報告の手紙を写真と共に添えて送付している。また、広報紙については、3ヵ月毎に発行している。コロナ禍にて、面会は窓越しにて対応しているが、電話も利用しご家族と会話できる環境作りを行うことによって精神安定に繋げている。また、ご家族に対しても、状態の変化等が生じた場合には都度連絡を行い情報を共有することで安心されている。 |   |                   |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている              | コロナ禍で制限のある中、出来るだけ要望に応じて馴染みのある畑や自宅周辺にドライブへお連れしている。陽ノ丘荘を利用されている夫婦の方は感染対策を行いながら可能な限り電話や会いにお連れし思いに寄り添うような支援に努めている。   | デイサービス利用者(知人や兄弟)との接点として同法人と連携して入居者との関わりを持ち、墓参や自宅周辺へのドライブ、牛を見に出かけたり、ドライブ途中に家に立ち寄る等出来る限り馴染みの関係が途切れない様支援している。携帯を持込み家族へ連絡を入れる入居者等もおられる。 |                   |
| 21 |     | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている          | レクリエーションや行事、家事活動の場を通して職員が間に入り孤立せず共同生活ができるように努めている。利用者同士が声掛けを行い壁画等の作品作りに取り組むことが出来るような関係構築に努めている。  |   |                   |

| 自己                                 | 外部  | 項目  | 自己評価   | 外部評価  |                   |  |
|------------------------------------|-----|---|--|---|-------------------|--|
|                                    |     |   | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |  |
| 22                                 |     | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 長期入院の方の御家族様の問い合わせには、病院と連絡をとり丁寧に対応している。契約終了後も御家族の相談に応じている。  |   |                   |  |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |     |   |  |   |                   |  |
| 23                                 | (9) | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している                        | 他事業所へ面会を希望する時は連絡をとり対応。畑へ作物を植えたり、花壇に花を植えたり、ドライブへお連れしている。嗜好品の購入は主に担当職員が対応。職員が日頃の会話等で得た情報は全職員で共有している。意思の伝達が困難な方に関してはご家族と相談しながら出来る限り本人の思いに添えるように努めている。 | 職員は入居者とのコミュニケーションにより希望等を聞き取りし、家に帰ってみたい・家を見てみたい等の思いを実現させている。意思疎通や発語困難には家族の思いと、今までの生活歴等から支援している。また、表情等からの推察や、目が見えない方にはタッチングによる声かけ等により本人の思いに添えている。 |                   |  |
| 24                                 |     | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                    | 入居前の本人の生活歴や暮らし方、生活環境を本人、ご家族、ケアマネージャーから情報収集を行い、出来る限り本人のこれまでの暮らし方に近づけるようなサービス提供に努めている。   |   |                   |  |
| 25                                 |     | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている                                  | 個人別のケース記録、個人表、排泄確認表、医療申し送りを活用し日々の状態把握に努め日誌や申し送りノートを活用し情報の共有を図っている。   |   |                   |  |

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|----|------|--|--|--|-------------------|
|    |      |  | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご家族には事前にケア会議への参加の有無を含めた意見や要望書を送付し担当職員とケアマネージャーが意見を交換しアセスメントを行いながら本人とご家族のニーズを反映した介護計画の原案を作成し、ケア会議で原案をもとに全職員で討議、より現状に即した介護計画を作成し半年に1度モニタリングを行っている。また一人ひとりの状況に応じて区分変更の申請や再アセスメント、計画の見直しを行ないより良く暮らすための支援を行っている。本年度はお二人の看取りを行ない終末期のプランの作成もを行っている。 | 入居されて一ヶ月程度を確認期間として、ホームでどのように過したいか等本人の意向を中心に、家族の意向や背景をリサーチし、職員の変化等の気づきをケア会議の中で話し合いプランへと反映させている。看取り期には、家族をはじめとして人とのつながりを継続し、心理的な寄り添い、身体的な変化に注意し、状態にあった緩和ケア等主治医の意見も組み入れ、支援方針の変更に伴うプランの変更等具体的なプランを作成している。また、日々のケース記録をプラン見直しに反映させている。 |                   |
| 27 |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                        | 個人の日々の状況や心身状況をケース記録にまとめて記入し申し送りノート(一般、医療)を作成する事で情報共有が出来るようにしている。また、これらの情報は介護計画作成時の評価やアセスメントにも活用している。   |  |                   |
| 28 |      | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる               | 外出、外泊については、新型コロナウイルス感染防止のため、対応困難な場合があるが、状況に応じて出来るだけ個別のニーズに対応している。面会に関しては、窓越し面会にて対応。しかし、看取り介護の際は本人や家族の気持ちを尊重し看取り部屋にて対面の面会を実施している。ご家族や医療と地域社会と連携しながら柔軟な支援やサービスに取り組めるよう努力している。また、緊急時や専門の医療機関への受診については感染防止対策をとり対応している。                           |  |                   |
| 29 |      | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                         | コロナ禍であるため、ボランティアへの依頼や老人会への参加はできていないが、行政や他職種とはコロナ感染対策などの情報を共有し連携を図っている。5月以降は、感染状況を踏まえながら地域との関わりを増やして、入居者が暮らしを楽しむことができるよう支援していく。   |  |                   |



| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価  | 外部評価  |  |
|----|------|---|---|---|--|
|    |      |   | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容  |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                                  | 入居時に協力医療機関等の説明を行い同意を得てから主治医の往診を実施している。主治医に報告を行いながら希望時(本人、ご家族等)専門医の受診対応を行っている。専門医受診の送迎はできるだけご家族対応としていたが、コロナ禍に伴い施設での送迎対応を行っている。緊急時も職員で対応。また、メディカルネットワークを活用し報告を行っている。  | 入居時に医療支援について説明し、家族の同意を得て全入居者が協力医療機関をかかりつけ医をしている。2週間毎に訪問診療にて対応して、突発的な状況には主治医の指示を受け受診に出向いている。専門医(眼科や整形等)への受診はコロナ禍により職員が付添い、家族に状況を発信している。  |  |
| 31 |      | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                          | 入居者の体調不良や急変時には、担当看護師に報告を行い対応。また、法人看護師と連携することで適切な受診、治療が受けられるように医療体制を整えている。   |   |  |
| 32 |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には、日常生活の状況、入院前の様子等を記載した情報提供で申し送りを行いスムーズな治療が受けられるよう努めている。入院中には定期的に電話したり、往診時主治医に状態を聞いたりして(コロナ禍のため)担当看護師やソーシャルワーカーと連携をとりながらスムーズな退院ができるよう努めている。月に1度、協力医療機関の病院関係者、当事業所の連携会議に参加し意見交換をしている。                       |   |  |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる  | 入居時に重度化指針及び事前指定書の説明を行い記入して頂き、内容は主治医にも報告している。以降は定期的に事前指定書を(1年後に更新)とりなおしている。また、ご家族の意向の変更があった時や状態変化の際、更新している。状態悪化の際は、主治医、ご家族と連携をとりICを実施。(ご家族希望時にも主治医に報告しIC実施)勉強会に関しては、定期的に実施し職員の理解を深め協力機関、法人事業所全体で支援できる体制を作っている。 | 入居時に重度化した場合の指針をもとに事前指定書で家族の意向を確認している。指定書は毎年取り直し、入居者の状態や家族の変化に対応している。本年度はコロナ禍での支援と言うことも有り、別室を準備し対策を講じた上で最終のひとつを家族と過してもらっている。管理者は「環境が完全に整っている訳では無い」としながらも、開設時からの入居者の最終章に、医療・栄養課・介護課の協力のもと最期を支援している。 | 職員はまず看取りの勉強会を開催したうえでケアに取り組み、支援後はアンケートにより入居者を偲んでいる。環境を整備して今後に臨みたいという志向の高さも聞かれ、今後も入居者は家族の思いに応えられることと期待される。 |

| 自己                               | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価   |  |
|----------------------------------|------|--|---|--|--|
|                                  |      |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容  |
| 34                               |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 応急手当及び対応等は看護職員からの指導、勉強会を実施し実践に繋げている。また、入居者の急変時や事故発生時に対応できるよう事務所に医療連携手順を掲示している。今年度も、コロナ禍のため、PPE着脱法や消毒、ゾーニング等の勉強会を行った。また、法人感染症会議等に参加し報告を行っている。              |  |  |
| 35                               | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 迅速に対応できるよう避難訓練を定期的実施。また法人とも連携を図り、非常食等の準備、保管を行っている。地元消防団との連携も図れており情報の共有に努めている。昨年の課題でもあったあらゆる災害への対応策として初めて防犯に関する勉強会を実施している。今後も様々な災害を想定し対応できるよう地域を含め考えていきたい。 | 年2回、法人との合同避難訓練を実施している。入居者も参加し、離床介助から誘導、避難までを行い、動きや所要時間を確認している。台風や積雪等自然災害や気象情報には事前に対策を講じ夜勤者以外の職員もホームで待機する等万全な対策を取っている。備蓄は法人と連携し、水や食糧、発電機等を準備し使用方法の研修を行う等有事に備えている。 | 課題としていた防犯対策に勉強会の開催とセンサーライトを設置している。コロナ禍で消防団との関わりは少なかったようだが、有事の際には協力頂ける体制であり、夜警には職員も参加する意向である。法人として万全な備えであるが、地域も含めた訓練等を検討頂きたい。 |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |      |  |   |  |  |
| 36                               | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている         | 陽なたぼっこの理念に基づき入居者、一人ひとりの尊厳を守りプライバシーを損ねない声掛け、対応を行っている。勉強会では職員が普段の自分の姿を振り返る機会を設け、会議では勉強会で学んだ事を活かし一人ひとりの対応を話し合い共有しながら支援に取り組んでいる。                              | プライバシー保護の勉強会で、特に介護現場に於ける取り組み状況について職員に聞き、支援を通じて自身を振り返る機会としている。職員は入居者に分かりやすい言葉や表現を心掛け、入浴の際等に人前で脱ぐ更衣や見られること等羞恥かしいと思われる気持ちを大切にしながら支援している。                            |  |
| 37                               |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている           | 入居者が自身の想いを職員へ気兼ねなく伝えられる雰囲気づくりに配慮している。また一人ひとりの希望や関心事を把握し自分で選べる場面を設けている。言葉で意思を表現しない方においては、表情から気持ちを組みとり、またご家族へ尋ねたりと情報を共有し本人の意向をくみ取れる様にしている。                  |  |  |

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価  |  |
|----|------|--|---|---|--|
|    |      |  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容  |
| 38 |      | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 入浴や食事等、大まかな日課はあるが体調やその日の気分等に応じ無理強いせず本人の思いやペースを大切にその時々で出来るような支援を行っている。また一人ひとりの好きな事を把握し読書や塗り絵、脳トレ、裁縫、草木の世話等、その方らしい暮らしが出来るよう努めている。   |   |  |
| 39 |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                  | 起床時には髭剃りや整髪の支援を行っている。また入浴予定日の前日には自分で着たい洋服を選んで準備して頂いたり、季節の変わり目には衣替えを行い入居者の要望を取り入れご家族協力のもと衣類の購入を行っている。訪問理由はコロナ感染防止にて中止となっており職員にて対応している。他、普段から乳液や化粧水、眉そり、顔そり等必要な物品は都度職員にて購入し身だしなみに対する支援を行っている。おしゃれを楽しみたい方にはカタログや広告等で好きな衣類を選んで頂く等楽しみを持たれるよう努めている。 |   |  |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている     | 毎日の献立は基本的に決まっているが、「～が食べたい」等希望があった際は担当にて購入したりご家族に依頼し生活の楽しみに繋げている。また、誕生日には一人ひとりの食べたい物を聞き提供、コロナ感染状況が落ち着いている際には感染対策に十分に配慮しながら、高菜折みや団子汁、チョコレート作り等一緒に調理を楽しんで頂いた。コロナ禍で外出の制限もあるため食べたい物を食べて頂けるよう努めている。食事の後片づけや食器洗い等、入居者に出来る事は行って頂いている。                 | 食事は法人厨房で調理されており、外食の制限には“食事を通して世界を旅行しよう”と銘打った他国の料理や、季節毎には行事食等が提供されている。菜園で実った野菜は収穫後は保存食作りへとつながり、堀りたてのジャガイモを蒸しておやつにする等新鮮な食材との関わりが入居者の日常をより豊かにしている。職員も1名が検食をしており、気づきや入居者の希望を厨房にあげている。 | コロナ感染症予防の一環として、現在各居室での食事となっている。コロナ感染症予防の緩和により再びリビングで賑やかな食事風景となることと期待したい。 |

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|----|------|--|--|--|-------------------|
|    |      |  | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている        | 法人管理栄養士の協力の下、その方にあった食事形態、量、水分の提供が出来ている。水分においては嗜好品を希望時(起床時、食前、食後)等に提供。水分・食事摂取が少ない方に関しては本人やご家族に嗜好品を尋ね購入し提供したり、栄養課に依頼し食べられるような物を提供して貰い対応している。また、アレルギーや禁忌食品等の把握は職員が確認しやすいところに掲示し常に職員全員が情報を共有出来るようにしている。  |  |                   |
| 42 |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                 | 月に1度、歯科衛生士と口腔ケアについて計画を立案し日々のケアに努めている。毎週水曜日には、訪問歯科診療を受け、治療や口腔ケアを定期的に行っている。日々の口腔ケアに関しては、1日3回毎食後に実施。個々の状態に合わせて舌ブラシ、スポンジを使用。口を開けることが困難な方にはバイトブロックを使用し確実な口腔ケアに努めている。また、自分で出来る方も磨き残しのないよう、仕上げ磨きの支援を行なっている。 |  |                   |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 個々の排泄の能力に応じて対応している。排泄チェック表を活用し、排泄のパターンを把握し必要な支援を行っている。日中は可能な限りトイレを使用していただいている。退院後の状態に応じたオムツ着用を含め、パッドや紙パンツ等の排泄用具を使用し随時、個々の状況にあわせて職員間で検討し自立にむけた支援を行っている。   | 日中はトイレでの排泄を基本とし、時間や仕草等の様子を見ながら誘導や声を掛けています。新たな入居者には排泄パターンを把握し、必要な排泄用品を選択しているが、入居時のアセスメントだけに頼らず、生活状況を見ながらオムツからリハビリパンツへと変更する等改善できることは随時検討し、トイレトペーパーは入居者の自立した能力を生かす事に繋がると捉え入居者自身で取る変えることとする等残存能力を生かしている。 |                   |

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|------|--|---|---|-------------------|
|    |      |  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 44 |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる                       | 適切な食事と水分量を確保する他、体操、レクリエーション、歩行運動を日課に取り入れコロナ禍で密にならないよう時間をずらし対応することで運動不足を解消し便秘対策の一環としている。また、排泄チェック表を活用し医師や看護師の指示の下、腹部マッサージや各種下剤を用い対応している。                       |   |                   |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 基本的に毎日入浴ができる体制を整えている。個々の身体の状態に応じて一般浴と機械浴を設置し対応している。今年も季節に合わせ、柚子湯や菖蒲湯等を楽しんで頂いた。  | ホームには一般浴と機械浴を設置しており、入居者の身体状況により使い分けている。職員との1帯1の時間は日頃は会話の少ない方が楽しそうに良く話をされる等入居者にとって貴重な時間となっている。入浴拒否をされる方も居られるが、無理強いせず、その時の気持ちを尊重しながら、別日に対応している。 |                   |
| 46 |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している                        | 昼夜逆転予防の為、日中、個人にあわせ体操、歩行訓練、脳トレ、プーリー等、身体を動かし夜間良眠できるように支援している。また個々の年齢や表情を観察し意思表示が難しい方も同じように表情を読んで適宜休息時間を設けている。また、座位、臥床時とわず足枕やクッション等を使用し除圧につとめ安楽な姿勢で休息や安眠を支援している。 |   |                   |
| 47 |      | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている                   | 個人ファイルを活用し、薬の内容や経過を見やすくし、また、変更があった際は医療申し送りに記載し全職員が把握できるようにしている。内服の準備から服薬後まで必ず職員2名にて確認し確実に服薬出来るように対応している。また、日々の身体状況や精神状態の観察を行い、何かあった際には都度看護師へ報告し対応している。        |   |                   |

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|------|---|---|---|-------------------|
|    |      |   | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 48 |      | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている                             | 一人ひとりの生活歴や性格、身体能力に寄り添った活動を支援している。家事活動(食器洗い、お盆拭き、縫物、洗濯物畳み、花や野菜の世話、草取り等)その方が出来る事を模索しながら行って頂く事で活力を見だし楽しみをもって生活できている。嗜好品に関しては各担当が入居者の食べたい物を聞いて購入している。また、普段の会話や広告をみて「〇〇が食べたいな～」と要望が聞かれた際は寿司、ラーメン、焼き芋等購入し提供。とても喜んで食べられている。他、病院受診時に売店で好きな食べ物を購入され気分転換が出来るよう支援している。 |   |                   |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コロナ禍が続いているが、感染者が下火傾向など状況に応じて個別に外出支援を実施。秋には紅葉ドライブを行っており車窓から眺める紅葉をみて喜ばれる姿がみられている。また、「家の近くにいきたい。買い物したい」等、個々の希望に添えるように個別又は少人数での外出支援も行っている。日常生活でも天気の良い日等には個別に散歩に出かける支援をしている。   | 遠出の機会は無かった様であるが、受診後に日頃気になっている自宅に立ち寄ることで安心されたり、嗜好品の買物は入居者が支払いをされる等希望を聞きながら個別に支援している。菜園での収穫作業も戸外活動の一環として入居者がいきいきと活動されている。居室の掃き出し窓から自由に裏庭に出て、シルバーカーや杖を使い分けながら過される等外出に代わる活動が定着している。 |                   |
| 50 |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している                             | 自由に使えるお金が身近にあると安心される方等のご家族の承諾を得て陽なたばこの金庫にお預かりしている。入居者が欲しいものは各担当にて購入しているが、自分で選びたいと要望がある際は個別に近所の店や通院時の病院の売店、他、訪問売店来荘時(年2回)に好きな物を購入できている。  |   |                   |

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|------|--|---|---|-------------------|
|    |      |  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | 家族の声が聴きたい、家が気になる等電話の要望がある際や家族から荷物が届いた時には職員の支援により連絡をとっている。現在、手紙や葉書でのやりとりの希望はないが、暑中見舞いや年賀状は職員と入居者と一緒に作成し送付している。現在、携帯電話を持たれている入居者の方も3名おられる。  |   |                   |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共有空間は毎日掃除をし定期的に消毒している。2~3名で過ごされるリビングは明るく開放感があり湿度や温度は適宜調整している。常に植物や花を飾り又カレンダーは入居者の作品を貼り生活感や季節感を取り入れて居心地良く過ごせるように工夫している。トイレは清潔を保ち又トイレに冷暖房を設置した事で適温を保っている。風呂場は整理整頓を行い空間を広く安全に入浴できるようにしている。 | 共有空間は掃除や換気をこまめに行い、入居者が過しやすい環境としている。入居者が協力して飾り付けを施す等楽しみとして、廊下に設けた展示コーナーは作る・見る喜びの一つとなっている。トイレは使い勝手が良いようにと、扉を外して車椅子利用者がスムーズに入れるようにカーテンを付けたり、夏場の熱中症や冬場の冷え対策にトイレにもエアコンを新たに設置している。    |                   |
| 53 |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共有空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような工夫をしている。   | リビング内にはソファや椅子を間隔を開け配置しており居室から出て利用し気分転換を図って頂いている。またコロナ過の為、居室の行き来は控えて頂いている。廊下に間隔をあけ椅子を配置し居場所の工夫をしている。   |   |                   |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている  | 入居時にご家族やご本人様と相談、話し合いながら、今まで使い慣れたタンスや愛着のある物を持ち込まれる事で入居前の環境を保って頂く。また、各担当職員に相談しながら居室の装飾を考えている。   | 入居の際、家族へは馴染みの品の必要性を説明し、愛着のあるものを見のまわりに置くことで安心した生活に繋げている。また、これまでの生活空間に近い状態にレイアウトし、テレビの持込みも多く居室で好きな番組を観たり、冷蔵庫には好きな飲み物を入れる等家庭の沿線としての生活を支えている。地震を経験し、2階からの避難を考えて、命を優先し居室を移動したケースもある。 |                   |

| 自己 | 外部 | 項目   | 自己評価   | 外部評価 |                   |
|----|----|--|--|------|-------------------|
|    |    |  | 実践状況   | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 55 |    | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 各居室の入口には表札、浴室、トイレ等共有部分には表示を使用し入居者が分かりやすいように工夫している。また共有スペースや居室など安全面を考慮し普段から整理整頓を行ない安心して生活ができるよう支援している。居室は入居者の住み慣れた環境を考慮しタンスやテレビ等の場所の配置にも配慮している。 |      |                   |